

委員会視察記録

委員会名	厚生委員会	
期 間	令和4年10月18日～19日	
参 加 者	委員長 小長井由雄 副委員長 杉本 好重 副委員長 牧野 正史 委 員 杉山 盛雄 委 員 山田 誠 委 員 佐地 茂人 委 員 良知 淳行 委 員 落合 慎悟 委 員 杉山 淳	
視 察 先	1 県女性相談センター、精神保健福祉センター、医療的ケア児等支援センター（静岡市駿河区） 2 ターントクルこども館（焼津市） 3 浜松学園（浜松市北区） 4 吉原林間学園（富士市） 5 アサヒ飲料株式会社富士山工場（富士宮市）	

視察の概要

10月18日（火）

■ 県女性相談センター、精神保健福祉センター、医療的ケア児等支援センター ＜概要＞

女性相談センターは、売春防止法の婦人相談所及びDV防止の配偶者暴力相談支援センターの機能を担っている。

相談件数は年々増加傾向で、夫等からのDVを含む人間関係を主訴とする相談が8割を占めている。

精神保健福祉センターは、精神保健福祉法第6条に基づき、こころの電話相談をはじめとしたひきこもりや依存症、自殺対策のための電話相談や面接相談、研修会の開催などを行っている。

医療的ケア児等支援センターは、法律施行に伴い令和4年7月4日に設置された。看護協会に委託し看護資格を有する専門職2名が家族や支援者からの様々な相談に応じている。

＜主な質疑応答＞

Q DVの具体的な内容、解決方法は。

A 身体的暴力のほか経済的暴力や言葉での暴力もある。また成人した子供からの暴言や親からの監視や締め付けについて10代後半～20代の相談もある。解決策としては被害女性の話を丁寧に聞き、本人の意向を尊重した対応を行っている。

Q 女性の自殺者増加の要因と対策は。

A コロナ禍で家庭に閉じ込められた閉塞感によるストレスによるものと個人的には考えている。女性と若者の自殺の割合が増えているが、数として



は中高年男性が多いことは忘れてほしくない。

Q ひきこもりの高齢化への対策は。

A 家族会と連携を図っているが、親も高齢化しており、どう支えていくかが課題。

Q 政令市の精神保健福祉センターとの連携は。

A 対応の仕方に差が出ることはないよう定期的に情報交換を行っている。

■ ターンクルこども館

<概要>

焼津市の子育て支援5本の柱のうち、Ⅱ子育て環境の整備に位置付けている。市民の声を聞いていく中で屋内の子供の遊び場が求められていたことから早期の施設整備を行った。来館者目標は7万人で、今年度上半期は38,000人余の来館があり、目標達成する見込み。来館者のうち67.5%が市外から訪れている。



<主な質疑応答>

Q 整備方針ではこども未来パーク創造事業とあるが、それがターンクルこども館のことか。

A 市民の声を聞いていく中で相談と子育て環境の整備を望んでいることが分かったため、子育てに関する総合的な窓口機能と小学生以上の子供が屋内で集い遊ぶ機能を市長戦略会議における方針として固めたもの。

Q 焼津市外からの利用者が多いことに対し市民から不満の声はないか。

A 市民からは特に苦情等はないが、思っていたよりも市外からの利用者が多い。市民が何回も足を運んでくれる環境を工夫していこうという思いをスタッフも持ってくれている。

Q 焼津市は子育て支援の中でも特に幼児に力を入れているのか。

A 基本構想では幼児から高校生までを対象としている。旧大井川町にあるトマトピアは体を動かすことに特化した。また他にも複数の子育て支援施設があるので、選択肢が増えかつ当館は幼児に特化したことが多くの来館者が訪れる要因の1つではと思っている。

Q パスポートの利用状況は。

A パスポートは平日のみなので、ママと小さな子が利用されている。特に育休中のママは混んでいる土日よりも平日利用が魅力的ではないかと思っている。

Q 絵本があるのいいと思うが、コンセプトで参考にした事例はあるか。

A プロポーザルの中での意見を参考にしながら決めてきた。また東京おもちゃ美術館の御協力を頂いている。

■ 浜松学園

<概要>

令和4年4月に県立から聖隷福祉事業団に民営化された。これに伴い就労支援A型、B型、短期入所、生活介護の事業を開始した。

また、施設の増築、改修工事を行い全室個室化を図るとともに、短期入所の部屋を整備した。

新作業を導入し1か月単位で様々な作業を行うことで利用者が特性を発揮でき、生産性を高めることを目指している。新しく設けたランドリーセンター及びオフィスハマガクでは専門業者と連携し、社会福祉法人だけでは不足する技術やノウハウを補える仕組みを整えている。

こうした取組により入園選考会の受験者数は令和2年の26名から令和5年の54名に倍増した。

<主な質疑応答>

Q 中卒、高卒年齢の比率は。また障害の程度はどのくらいか。

A 18歳で卒業してくる子の比率が増えている。割合としては7：3ぐらい。フリースクールや通信制高校から入園する生徒が多くなっているという印象である。療育手帳B2の所有者が多く、IQではだいたい70前後。障害の幅は広がっている。



10月19日（木）

■ 吉原林間学園

<概要>

昭和37年に全国で2番目に設立された当時は軽度非行の児童が多かったが、現在は被虐待や発達障害の児童が主となっている。

入所状況としては、勉強や友達との人間関係も複雑になってくる小学4～6年生の割合が大きい。

入園元、退園先の状況としては、自宅、児童養護施設の順となっている。

<主な質疑応答>

Q 退園後の通学先、進学先は。

A 元の在籍校と連携しながら、本人の進学するというモチベーションや自分を客観的に見ることができるような支援等をしていかなければと思っている。学力の問題はあるが、地域に出た時にどういう相談支援でやってくれるかがポイントである。

Q 特別支援学校高等部への進学は。

A 特別支援学校高等部は知的及び身体障害児が主な対象で、当園の児童は発達障害児が多いため難しい。

Q 小規模ユニット化し職員との関係が近くなったということだが、職員は



園内に住んでいるのか。情報共有はどのようにしているのか。

A 職員は通勤している。1フロアだいたい7人体制となっており、週1回程度泊まり勤務となる。また朝の登校時など忙しい時間帯は職員体制を厚くしている。

毎日13時半から、その日に勤務している職員全員で1時間から1時間半かけて前日からの児童の様子の情報共有を図り、支援の一貫性を保っている。

Q 現員40人なので暫定定員46人まで受入れ可能か。

A 部屋の空き状況や学校のクラス数や教員配置の関係で現実には困難。小学校低学年の女児であれば入所可能というように適宜児童相談所に伝えている。

Q いろいろな子供がいるので大変だと思うが、どう対応していくのか。

A 子供の権利を守るためには、ボヤやこのままでは火が出るかもしれないという段階で予防、早期発見していくことが大事。子供だけでなく親も含めた包括的な対応ができるシステムが必要だと思う。また中卒後に行き先のない高齢児童（高校生相当）が増えており、それに対する支援が必要だと感じている。

■ アサヒ飲料株式会社富士山工場

<概要>

アサヒ飲料株式会社では、HACCPの取得が義務化される令和3年6月よりも前からHACCPを取得し、安全・安心な商品の提供に努めている。また工場ではペットボトル原料などの資源のリサイクルを100%実施している。

富士山工場では十六茶やミネラルウォーター、炭酸飲料を製造しており、敷地内で地下水を5本くみ上げているが、一度も外気に触れることなく商品に活用している。

<主な質疑応答>

Q CCP（重要管理点）はどのように管理しているのか。逸脱した場合の対応は。

A 作る工程で人の手に触れることなく機械できれいな部屋で無菌充填している。外気に触れることなくパイプを通して充填されるため、それで品質が保証される。決まった時間に商品を抜き出し、品質管理部で検査し、OKであれば出荷が始まる。

逸脱できないような工程になっている。

